

イー歯トープ 8020  歯と口のハテナ

① 県歯科医師会

根の治療とは、根管(根の中の神経や血管の入っている管のこと)を消毒し、薬を詰めて細菌が入り込まないようにすることです。

根の治療が必要となるケースとして、以下の四つが考えられます。

①むし歯が深い時や神経まで達した場合 むし歯が深くても神経まで達していない時は、なるべく神経を残すように治療します。治療後にしみたり、痛みが出てしまった場合やむし歯が神経まで達し強い痛みがでた場合には、痛みを取るために麻酔

細菌が入ると長期化

をして神経を取り、根の治療が必要になります。

②神経が死んでしまった場合 むし歯や外傷などが原因で神経が死ぬことがあります。神経が死んでしまうと腐って痛みがでます。その場合、根の治療が必要になります。

③根の中に細菌が入って痛み

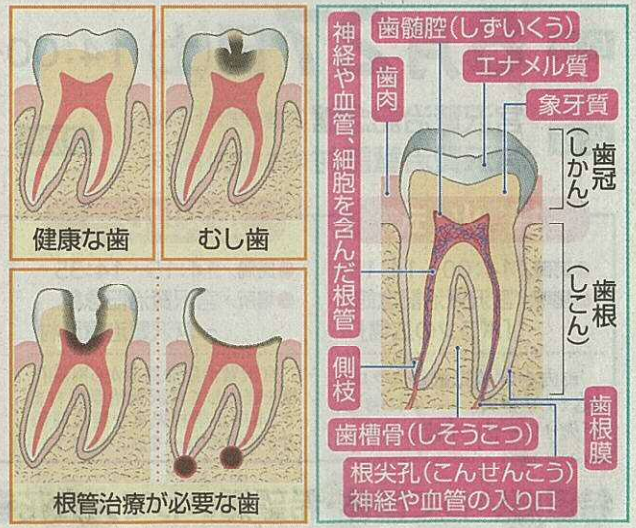
④その他



熊谷 英人(くまがい ひでと) 1957年生まれ。岩手医大歯学部卒。県歯科医師会学術医療管理委員会委員。峰岸歯科医院(大船渡市)院長。大船渡市在住。同市出身。

根の治療①

熊谷 英人



た場合、重症の知覚過敏症で痛みがひどい場合や、ぶつけて歯が折れ神経にまで達してしまい細菌感染した場合も根の治療が必要になります。

根管はまっすぐな管ではなく曲がりたり枝分かれしているため、一度感染してしまうと完全に無菌化することは非常に困難です。治療が長期に渡ることもがあります(次号掲載予定)。

そのため、根の治療になる前に治療することが大切です。不幸にして根の治療が必要になった場合は、しっかり根の治療をして悪化させないことが重要です。(月曜日に掲載します)